



1 明北小『6年生が中心になり自分たちで創る音楽会』

6年生は、自分たちで創る明北小音楽会(6/10)を目指し、必要な係として「プログラム・オープニング・放送・装飾・会場」を考え、分担して活動を進めていきました。

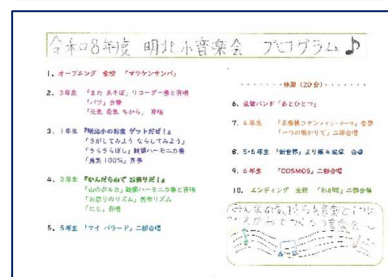
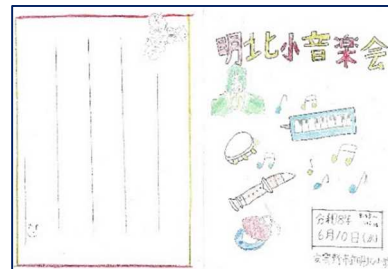
オープニング係は、自分たちの計画を元に全校音楽を行い、保護者・地域の皆さんと一緒に「明北サンバ」を楽しむことを仲間と目指しました。

先生方は、子どもたちの姿に目を向けながら、必要に応じてフォローをします。子どもたち主体の活動を支える伴走支援者として、気持ちは常に子どもたちと共にあります。

【係児童作成「係案」】

放送係 メンバー ○○、○○
①目的
各学年の見どころ、その曲の魅力や頑張りを伝える。
②仕事内容
【音楽会前日まで】
・教室に行き各学年に見どころを聞く。・アナウンス原稿作り
【音楽会前日】
・マイク3本
【当日】
・アナウンス

【係児童作成「プログラム」】



2 音楽会練習『明科北認定こども園 園児が参観』 6月5日(金)



明北小からお誘いし、5日のステージ練習で、1年生が通し練習をしている様子を、北こども園年長の皆さんに見てもらいました。来年度明北小の1年生としてステージに立つ子もいます。園児が知っている曲もあり、時折手拍子もしながら聴いていました。時間の終わり、園児に感想を聞くと「歌、全部楽しかった!」と、1年生に伝えてくれました。

3 音楽会オープニング『明北サンバを会場の皆さんと楽しもう!』(当日)



オープニング係が中心になって行う、江戸を想定した楽しい寸劇から始まった明北サンバです。参観する保護者を児童が囲み、6年生は各学年に入りました。係の提案で、1～3年生はボディパーカッション、4・5年生はカスタネット、6年生と4・5年生の一部は金管楽器と鍵盤ハーモニカを担当し、元気の良い歌声やかかけ声、手拍子や足ドンと共に体育館中に響きました。会場全体が一体となり、笑顔と喝采でいっぱいになるオープニングになりました。

4 音楽会『歌い・演奏する子どもたち』（当日）



5 明北小音楽会エンディング『明科の歌をみんなで歌おう！』（当日）



音楽会の最後は全校二部合唱『わが町』です。この曲は、(旧)明科町の躍進を象徴し、明るく健やかなふるさとづくりを進めるために昭和57年に制定された、上條恒彦氏作詞・作曲の町歌です。明北小音楽会の最終曲にふさわしく、明るく元気良い歌声が会場全体に響きました。指揮は、ご指導をいただいている三原寿雄先生です。

6 明北小6年『自分たちが目指す音楽会』

明北小音楽会 6学年だよりから

「6年生ありがとう。」職員室では、音楽会を準備してきた6年生に対して、感謝の声を多くいただきました。すべては「今年も音楽会をやりたい！」という声から始まりました。「みんなの気持ちを音楽で1つに～笑顔でつくろう音楽会～」という目標を全員で共有し、自分たちが目指す音楽会を一步一步つくり上げていきました。音楽会終了後の子どもたちは、清々しい笑顔とちょっとした疲れが見える表情をしていました。悔いの残らないように、トコトン音楽会に向けて準備を進めてきた者の顔つきでした。そんな子どもたちの振り返りには、高いモチベーションで臨んだことや、多少失敗しても焦らずに対応できたこと、各係での仕事に徹したこと、音楽会を支えることができたことなど、前向きな振り返りの言葉が多くありました。合唱や合奏が技術的にうまくいったことはもちろんですが、仲間と創り上げてきたことで生まれた「心の一体感」を強く感じている子も多くいました。

これだけの充実した思いを経験するためには、本気で音楽会に向き合う必要がありました。本気というのは、楽しくもあり、苦しくもあります。つくり出していくものの質がどんどん上がり、上手くなっていることへの手応えを感じ、自信がわいてくるものです。一方でそれと引き換えに、自由が減り、娯楽に注ぐ時間が少なくなり、ストレスを溜めることもあります。行事では、このバランスが非常に難しくなります。しかし、6年生として後悔したくない思いと音楽会を楽しみたいという思いの強さがあり、大変だと思っても粘り強く、努力を続けることができました。本当に自慢の6年生です。